



# おおるり

HACHIOJI DIGESTIVE DISEASE HOSPITAL NEWS

**第31号**

医療法人財団 中山会

**八王子消化器病院**

消化器病専門医療機関 東京女子医大関連病院

日本医療機能評価機構認定病院

〒192-0903 東京都八王子市万町 177-3

TEL: 042-626-5111

www.八王子消化器病院.com

制作 (株)教育広報社

3月11日に発生しました東日本大震災は、東北地方を中心に未曾有の大災害を引き起こしました。地震から早4ヶ月が経過しました現在も地震で被害を受けられた多くの方々が避難生活を余儀なくされ、不自由な毎日を送られています。また、福島原子力発電所事故による周辺住民の方も放射線障害の危険から避難を強いられています。被災者の皆様にお見舞いと、一日も早い復旧復興を心よりお祈り申し上げます。

皆様もご存知の通り、震災後3月下旬にかけ東京電力管内の関東全域に計画停電が実施されました。当院の医療活動も制限され、患者様に多大な迷惑をおかけしました。その後、制限は解除されたが電力消費量の増加が予想されるこの夏場にかけて電力会社から一般企業のみならず医療機関に対しても一層の節電努力が要請されました。医療機関にとって電力は必要不可欠なライ

フライングであります。社会活動全体の維持に必要であれば医療施設も節電に協力する責任があります。3月に実施されました計画停電時と同様に医療活動の制限が懸念されますが、皆様のご協力と病院職員の努力で、不自由で制約の多い医療現場でも安全に最大限の配慮を払い診療活動を継続していく所存です。

当院は平成14年に現在の病院へ移転開院



## 病院診療と節電対策

八王子消化器病院  
理事長 鈴木 衛

使用禁止、電子カルテの使用制限、医療行為が行われない場所の消灯などを行い電力消費を抑えます。これらの措置にも拘らず停電が実施された場合は、自家発電装置が瞬時に起動し、手術室、病棟回復室をはじめ各検査室に非常用電力が供給され患者様の安全を確保致します。

当院では今回の大震災を機に公共財としてのエネルギーに対する考え方について真剣な討議を行つてまいりました。その一環として本年8月11日から13日までの3日間、昭和58年の開院以来初めてとなる病院の外來業務を休診させていただきます。これは夏本番で気温上昇が予想される時期に外来診察と検査を休止し、病院全体の消費電力を減らし被災地への復旧に向け協力する目的であります。大量の電力を消費する大工場が行う節電休業に比べるとわずかな協力行為ではありますが、1ヶ月の診療日数の十分の一を休業することで節電へ協力いたします。この間、病院職員は病棟勤務の看護師、栄養科、一部の事務職を除き休業となります。3日間の休業は職員への単なる夏期休暇ではありません。この間に各人が個人として社会に貢献できることは何か、自分は何をすべきかを見つめ直す機会として考えることを求めました。そして、内容・期間を問わず病院の内外で自分のできる具体的な行動を起こすよう課題を与えました。

以上、当院の節電に対する考え方について述べさせていただきました。病院職員としての日常業務を行いながら医療活動以外の社会貢献も促し、今回の東日本大震災で被害を受けられた東北地方の方々に病院を挙げて援助と応援を続けていく所存であります。



## 大腸疾患の

### 診断と治療について

八王子消化器病院 副院長

武雄 康悦

本年4月に副院長を拝命しました。

1987年に消化器内科医として当院へ赴任し、早25年目になります。当院の前身である中山記念胃腸科病院時代から大腸内視鏡検査を中心に大腸疾患の診断と治療を行つてまいりました。今回は私の専門分野であります大腸疾患に対する大腸内視鏡検査について当院で実際に行つてある診断方法と治療について紹介させていただきます。

昨今、日本人の食生活習慣の欧米化が進み、従来、日本人には稀であった大腸疾患が急激に増加しております。大腸疾患は、急性大腸炎をはじめとする炎症性の病気と大腸ポリープや大腸癌など腫瘍性の病気に大きく二つに分けられます。炎症性の大腸疾患である大腸憩室炎や大腸憩室出血、虚血性大腸炎、潰瘍性大腸炎などとともに、腫瘍性の疾患である大腸ポリープや大腸癌患者も近年著しく増加しております。

大腸疾患の症状としては腹痛、腹満感、便通障害などがありますが、とりわけ特徴的な症状として肛門からの出血があります。肛門から大量の出血を見るもの

から、排便後に少量の血液がトイレットペーパーに付着する程度の場合、あるいは検診やドックの便潜血検査で陽性反応を指摘されるものまで様々あります。いずれかの症状や所見が見られる場合には大腸の検査が必要です。

通常行なわれている大腸疾患の精密な検査方法として、バリウム検査である注腸造影検査と大腸内視鏡検査があります。当院で年間に行なわれる注腸造影検査は約2,600件で、後者の大腸内視鏡検査は約3,600件です。注腸検査は肛門からバリウムを注入し、その後、大腸内に空気を注入し大腸の病変を検査します。

注腸造影検査に要する時間は20～30分です。検査の前日に大腸内の便を少なくする特別な食事と下剤を飲んで検査の準備をします。検査当日は外来で検査を受けいただき、検査後に担当医師より検査結果の説明を受けます。通常は検査のための入院は必要ありません。

もうひとつの大腸検査である大腸内視鏡検査も前日に大腸内の便を少なくする特別な食事と下剤を飲んで検査の準備をします。さらに検査当日にも大腸内の便

を排出するため約2リットルの液体をゆっくり服用していただき、大腸内に便が残つていなことを確認してから検査を実施します。大腸内視鏡検査に要する時間は通常30分前後ですが、大腸に強い癒着がある方（腹部手術既往のある方）では検査時間が長くなることがあります。大腸内視鏡検査は、苦しい検査であるとの印象が強いですが、大腸の長い方や腹部手術既往のある方では、カメラが大腸内で移動する際に大腸自体が引っ張られ疼痛を感じることがあります。当院ではこのように強い苦痛を感じられる方には、検査実施時に睡眠導入剤を点滴で投与する意識下鎮静麻酔を行っています。大腸内視鏡検査で意識下鎮静麻酔を受ける際は、検査後に入院をしていただくことになりますので、担当医師にご相談ください。

### 大腸癌を寄せつけないために

1. 動物性の脂肪を摂りすぎない  
牛肉、豚肉、鶏肉の皮など
2. 食物纖維をたくさん摂る  
きのこ類、緑黄色野菜、根菜、いも類、豆類、海藻類など
3. 適度な運動をする  
毎日、30分以上のウォーキングなど
4. 便秘をしない  
牛乳、ヨーグルト、水分をしっかりと摂る

最後に私の専門であります大腸内視鏡検査医として大腸ポリープの治療についての考え方を述べさせていただきます。

大腸に発生するポリープの大部分は、大腸癌へ変化する腫瘍性ポリープであります。ポリープの大きさが10mmを超えるとポリープの表面に癌細胞がみられることがあります。このため大腸内視鏡検査中にポリープがみられましたら、小さなポリープであれば細胞の検査（組織生検）を行いますが、5mm以上のポリープの場合はポリープの摘除を行う必要があります。摘除したポリープの組織検査で腺腫性（腫瘍性）ポリープと診断されたら、1年後も大腸内視鏡検査を受け、再度ポリープがみられましたらその場でポリペクトミー（内視鏡的ポリープ切除術）による治療を受けることが必要です。

ポリープが癌に進展した場合でも早期大腸癌であれば、大腸内視鏡下粘膜切除術で癌病巣の完全な切除（根治的治療）が可能であることも多く、開腹手術を受けることなく早期大腸癌の根治的治療が得られます。大腸ポリープが良性であるうちに大腸内視鏡検査で摘除をうけることは、大腸癌で開腹外科手術を受けることもない唯一かつ有効な癌予防法であります。



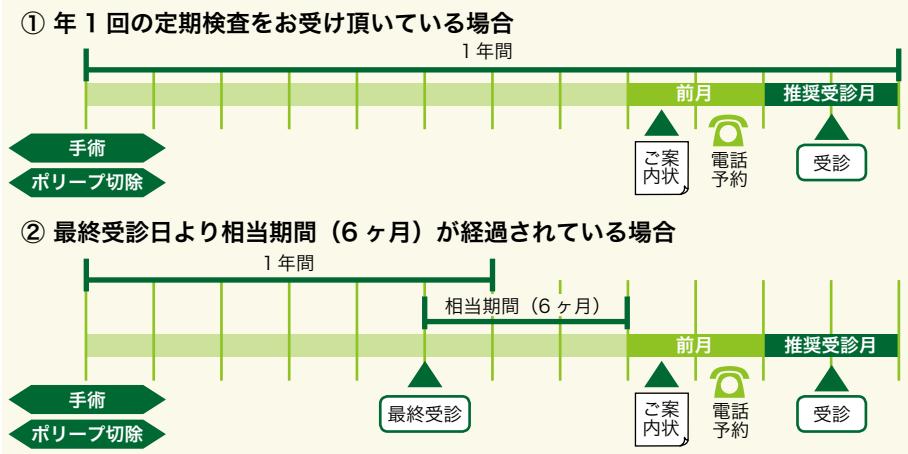
## 『定期受診・検査のご案内状』の送付について

病診連携室 室長 大津 行博

本誌24号で紹介をさせて頂きました『定期受診・検査のご案内状』も運用開始から4年を経過致しました。「案内状が届く度に今年も忘れずに検査を受けようと思う」「しばらく通院していないとも病院とどこかで繋がっている感じがして安心する」など、お褒めの言葉を頂いております。現在までに約3,000通のご案内状をお送りして、多くの患者様に再度の受診をして頂いております。今回は改正点も含めまして、改めて本制度のご案内をさせて頂きます。

当院では「手術」または「大腸内視鏡的ポリープ切除」をお受け頂いてから相当期間が経過された方を対象として、受診時期をご案内致しております。ご案内状が届きましたら、かかりつけ医の先生にご相談頂くかまたは当院を受診されることをお勧め致します。

疾病の早期発見・早期治療には、少なくとも年1回の定期検診が必要とされております。このご案内状を通して、患者様の健康で充実した生活のお手伝いが出来ましたら幸いです。



### 【対象者】

当院で「手術」または「大腸内視鏡的ポリープ切除」をお受け頂いた方で

- ①年1回の定期検査をお受け頂いている場合
- ②最終受診日より相当期間（6ヶ月）が経過されている場合

### 【ご家族・ご友人の紹介について】

ご家族・ご友人に消化器疾患の検査・治療をご希望の方がおられましたら、同封の用紙により受診をお勧め頂きますようお願い致します。

紹介患者様をお待たせしないようにと努めておりますが、診察の混雑状況によりご不便をおかけしてしまうことがあります。

待ち時間短縮のために事前のカルテ作成・受付をさせて頂きます。

### 【診察予約電話 ご家族・ご友人紹介窓口】

**病診連携室（直通）070-6569-3913  
または042-626-5111（代表）**

月～金 9:00～17:00

土 9:00～13:30

\*ご案内状をお持ちである旨をお伝えください。

### 想うこと

昨年は新気象用語ともなった「猛暑日」が続き、記録的な暑さの厳しい夏でした。

今夏はと言えば、梅雨明け宣言が出されぬうちの猛暑日到来ということで酷暑が予測され、更に加えて原発事故による電力の供給不安があり「想定外暑日」などという新造語が生まれるのではないかと危惧しています。



このような状況下、7月1日より節電に向けての本格的な取組み・対策が法的規制を伴ってスタートしました。春先の計画停電時とは比べものにならない厳しい対応を求められることは避けられません。病院が引き続き患者様に安全かつ安心な医療を提供し続けるために皆様方の尚一層のご協力をお願い致します。

事務長 久野久夫